

令和6年度第1回大野城市上下水道事業運営審議会 会議録	
日 時	令和6年11月5日(火) 13:30~15:00
開催場所	市役所4階 全員協議会室
出席者	審議会：広城会長、河波副会長、小原委員、斧田委員、高原委員、田口委員、釘崎委員 以上7名 上下水道局：松竹上下水道局長、白石企業総務課長、江崎料金施設課長、川畑上下水道工務課長 他8名(係長、担当) 以上12名
欠席者	なし
傍聴者	なし
議 事	<ul style="list-style-type: none"> ・大野城市水道事業会計 令和5年度決算及び令和6年度予算について ・大野城市下水道事業会計 令和5年度決算及び令和6年度予算について ・第4次中期経営計画における令和6年度事業計画について
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・【資料①-1、①-2】令和5年度大野城市上下水道事業会計決算の概要 ・【資料②-1、②-2】令和6年度大野城市上下水道事業会計予算の概要 ・【資料③】令和5年度水道事業決算書 ・【資料④】令和5年度下水道事業決算書 ・【資料⑤】令和6年度水道事業予算書 ・【資料⑥】令和6年度下水道事業予算書 ・【資料⑦】第4次中期経営計画主要事業管理一覧表(R6~R10)

議 事	<p>◇令和6年度第1回大野城市上下水道事業運営審議会</p> <p>1 開会あいさつ</p> <p>2 事務局職員紹介</p> <p>【議事】</p> <p>3 大野城市水道事業会計 令和5年度決算及び令和6年度予算について (資料①-1、②-1、③、⑤)</p> <p>令和5年度決算、令和6年度予算の順番に説明。</p> <p>○質疑</p> <p>(委員) 加入金について、令和4年度決算と比べて令和5年度は減となっているが、令和5年度予算と比べて令和6年度予算では増となっている。どういう見込みで予算を計上しているのか。</p> <p>(市) 令和5年度については、住宅建設がそろそろピークを迎えると思見込んで予算を立てたが、見込みを超える住宅建設が今も続いており、予算を上回る決算額となった。 このような状況を見越して、令和6年度予算については、令和5年度予算をベースに、それよりも増える見込みで計上している。</p> <p>(委員) 人件費について、令和5年度決算と比べて令和6年度予算は増となっているが、人員が増える見込みだったのか。</p> <p>(市) 人員増を見込んだものではない。人件費については、予算要求段階では令和6年度の人員数などは確定していないため、令和5年度ベースの人員数などで予算計上を行っている。そのため、令和5年度決算額と令和6年度予算額を比較すると増に見えるが、令和5年度と令和6年度の予算額を比較するとほぼ同程度となっている。</p> <p>(委員) 資本的収支不足額の補てんについて、当年度損益勘定留保資金とは何か。</p> <p>(市) 収益的収支の中には、支出のうち、非現金である、現金の減らない支出である減価償却費・資産減耗費と収入のうち、非現金である、現金の増えない収入である長期前受金戻入があり、その差額が現金として浮いてしまう。その資金を損益勘定留保資金という。</p> <p>(委員) 水道事業債について、令和5年度の予算から執行が低いのはなぜか。また、令和5年度から借入を行っているが、このことを見越した財政収支になっているのか。</p> <p>(市) 建設改良費とあわせて、水道事業債も令和5年度から令和6年</p>
-----	--

度へ繰り越しているため、令和5年度の執行額が下がっている。借り入れについては、令和6年度から水道施設再編更新事業などで大きな工事を予定していることから、企業債を借り入れる方向で、第4次中期経営計画を策定しているところである。

(委員) 企業債の借入は今後も民間銀行を考えているのか。

(市) 借入先は利率を比較して検討している。

(委員) 収益的収支の棒グラフの部分と文章部分の金額の記載方法を統一してはどうか。また、令和5年度の資本的収支の部分で、令和4年度と比較して1,368.93%の増というのは間違いないか。

(市) 記載方法については承知しました。

令和5年度は建設改良が増えたため、それに伴う補助金等の収入や企業債の借入により、大幅な資本的収入の増となっており、令和4年度と比較して1,368.93%の増となっている。

4 大野城市下水道事業会計 令和5年度決算及び令和6年度予算について (資料①-2、②-2、④、⑥)

令和5年度決算、令和6年度予算の順番に説明。

○質疑

なし

5 第4次中期経営計画における令和6年度事業計画について (資料⑦)

各主要施策23項目について、令和6年度事業計画を主要施策の順に担当係長が説明。

○質疑

(委員) 主要施策①水質管理体制の充実について、PFAS(有機フッ素化合物)が問題になっているが、大野城市ではどのような取組を行っているのか。

(市) 大野城市では原水と給水栓において、水質検査を行っている。原水については、微量なPFASが検出されたことがある。給水栓については、水質検査の測定範囲以下のため、検出されたことはない。

検査結果については、市ホームページで公表している。

(委員) 主要施策⑨事業場排水の指導について、令和6年度において、

	<p>事業場への指導は行ったのか。</p> <p>(市) 令和6年度については、まだ水質検査を行っていない。今後、水質検査を行い、結果が悪ければ指導を行う。</p> <p>(委員) 主要施策⑫汚水施設の耐震化事業について、第4次中期経営計画で耐震化の計画策定を行い、第5次中期経営計画で工事を行うというのは対応が遅いのではないか。</p> <p>(市) 当初はその予定だったが、令和6年能登半島地震をうけて、国から令和7年1月末までに耐震化の計画を策定し、令和7年度からおおむね5年間で、重要施設等に接続する上下水道の耐震化を進めるように通達が来ている。現在は、対象路線の選定や事業費の算出を行っているところであり、当初予定より前倒しで事業を実施できるように検討を進める。</p> <p>(委員) 地震による液状化が起りやすい場所は把握しているのか。</p> <p>(市) 福岡県の防災アセスメント（正式名称：地震に関する防災アセスメント報告書）の中で液状化が起りやすい場所は明示されているが、市で行った地質調査の結果と必ずしも一致するものではない。県の情報を参考にしながら、市で把握している地質調査の結果をもとに、液状化しやすい場所を選定し、対策を行っていく必要がある。</p> <p>(委員) 主要施策⑬次世代自動車の導入について、EV車の導入は国からの指導によるものなのか。市として検討し、判断したものなのか。</p> <p>(市) 循環型社会推進課が所管であるが、市としてゼロカーボンを目指していく方針であることから、水道局においても、それに則ってEV車の導入を進めるものである。</p> <p>(委員) 主要施策⑭再生可能エネルギー導入の検討について、現時点では、太陽光発電のみを検討しているのか。</p> <p>(市) 主に次世代型太陽光発電の研究を行っている。また、高い所から低い所へ水を送る際の水圧を利用した小水力発電についても、第3次中期経営計画期間中から、引き続き研究を行っている。</p> <p>(委員) 再生可能エネルギーには下水道処理場の消化ガスを利用した発電もあるが、大野城市でも導入は可能なのか。</p> <p>(市) 大野城市は流域下水道であり、本市には下水道処理施設はないため、導入はできない。</p>
--	--

【その他】

6 その他

事務連絡について説明。

7 閉 会

松竹上下水道局長より閉会のあいさつ。

以 上